

見出し	地震で心配なこと、困ること			対 策	誰 が			いつ		
					自分	地域	行政	今から	その時	被災後
自主防災組織	自主防災会に資機材の備えがない	万が一の時にどうするか、地域での話し合いが出来ていないので困っている	他県からの支援物資が届くまで自分たちでどうにかできるのか不安	<ul style="list-style-type: none"> 〇〇〇防災基本条例を制定し、設置の促進を図る 近い将来、絶対に地震がくるので本気で備える 地域で自主防災組織を今からつくっておく 			○	○		
	住宅が点在しているため、声かけが困難で困っている	自主防災組織が地域の役員のみで、これではあまり役に立つように思えない		<ul style="list-style-type: none"> 地域で防災意識を高める 山間地の危機感の醸成に努める 日頃の集会等で必ず防災の話をする 	○	○	○	○		
家の中の防災対策	家具転倒防止等の対策が進んでいない	まだ、タンスの上にも高く積み上げている	食器棚の倒れ止めもまだしていない危機感がない	<ul style="list-style-type: none"> 「福祉と防災」を基本に社協等が取り組む(高齢者、病弱者対策) 自分から家の中の防災点検と対策を今からしておく(家族の話し合い) 棚が倒れるのを止める器具をつけたり、スリッパをかまえるなど、身近に出来ることをする 寝ている所の近くに靴を置くとか、逃げる道をあらかじめ決めておくなどの対策をしておく 	○		○	○		
					○			○		
土砂災害	急な山が多く、土石が崩れる危険性が多く、困っている	雨と地震が同時に来た時は困る	大雨で山崩れが起き、川が堰き止められて家屋が流される	<ul style="list-style-type: none"> 河川の周囲の引っかかりやすい竹、柳など、地域で分けて伐採する。 				○		
	川の近くに家があり、山津波が起こったとき、流される(避難施設等も)	ダムが壊れる可能性があるので心配		<ul style="list-style-type: none"> 土砂災害防止対策を行政で早く進めてもらう(砂防ダム) 				○	○	
救援対策	家の前の道が旧道なので、地震がくると崩れる恐れがある	地震で死ぬのがこわい 家が崩れる	近所の一人暮らしの高齢者が心配です	<ul style="list-style-type: none"> 家族が離ればなれになったら、どこに集まるのか話し合っておく 	○			○		
	家が古いので壊れるのがこわい	地震が起きて孤立した時、域内で助けがくるのか不安	この年では、死にたくない	<ul style="list-style-type: none"> ベッドの近くに靴を置いておく 						
	家族と離ればなれになったらどうしよう!				○			○		
避難場所	地震が起きた時、避難場所に行けるか不安	避難場所が一箇所指定されている二箇所以上は必要	自分だけかもしれないが、避難場所を知らないで不安だ	<ul style="list-style-type: none"> 安全な避難場所を周知する 自主防災組織の活動より対応できる 			○	○	○	
	深夜に地盤が崩れたら困る 道路が通れなくなるなど	避難場所が安全なのか不安		<ul style="list-style-type: none"> 避難場所の表示をしておく 知らない人がいるので、ビラを配れば良いと思う 	○	○	○	○		

見出し	地震で心配なこと、困ること			対 策	誰 が			いつ		
					自分	地域	行政	今から	その時	被災後
住民意識	住民の意識がバラバラ 誰がまとめる？	危機意識をどうやって 高めるか？	自主防災組織作り は心の準備中です	・コミュニティの再生 ・自主防災組織のモデルをつくる ・リーダーの育成をする		○	○	○		
	自主防災組織がない									
発生	家が古いので壊れ そう	家財の倒壊 被害	家具の転倒	・家屋の診断 ・自分の命、財産を守るための行動 家具の固定						
災害	家の裏山が危ない！	ダムは壊れないの か	川の氾濫による水 没	・危険箇所の広報						
	土石流で地藏寺川 が堰き止められる									
	私の家、部落は早明浦ダム直下です 毎年、洪水で心配ですが、平成12年芸予地震で護岸がひび割れました その後、復旧工事は出来ました 心配です									
避難	避難した家屋、集落 の防犯は？	一人暮らしの老人 の避難はどうするの か	私の部落はお年寄 りが多く、いざとい う時、どうすれば良い のか	—						
	家族との連絡 息子：名古屋、高知 母：愛媛	地域の要援護者の 情報がつかめている のか	ケガ人の手当て 病人の対応、体制 が考えられていない							
情報	AMラジオが聞こえ ない(特に夜間)	被害の把握(情報の やりとり)	山の中での作業 中、携帯電話の不 感地域解消	・現状を知ってもらう ・ラジオが聞けるようにする ・地域の課題として世論とする						
	四国地方のテレビ の放送が遅い(約1 0分) 関東地区等は約5 分内	携帯電話 ラジオが入らないの で情報が心配	土佐町内にトンネル が4ヶ所ありますが 、中でラジオが聞 けません							
行政 (の限界) 自助	警察と消防の連絡 がとれていない	避難の基準が？ 自主、勧告、指示、 命令	行政が何ができ るの？ 示されてない	・他の町村に学び、自覚する						
	職員が役場に来れ るのか？ 本部の体制は機能 するのか									
復興	ボランティアが来る 時、どうするの？	食料の確保		—						

見出し	地震で心配なこと、困ること			対 策	誰 が			いつ		
					自分	地域	行政	今から	その時	被災後
避難場所	避難場所までが遠い	避難場所がわからない	地すべり地帯指定区域なので、逃げる場所がない(山崩れ、道は山に沿っている、ガケに面している)	<ul style="list-style-type: none"> 家族同士の話し合い 避難路の表示(やっているところに置く) 地区毎の避難場所表示(案内板) 避難場所地図(大看板で)を街中に設置(やっているところあり) 看板などを使って避難場所を誰にでも分かるようにする 分かりやすい看板を所々に設置する(矢印などを使って方向を示す) 						
時間	嶺北は山なので、助けが来る時間が遅くなる	周りが山ばかりなので逃げる時間がない!		・避難場所や避難経路を地域や部落ごとに話し合う						
避難道	山間地域では居住家が散々交通の確保	水はあるが食料がない	避難場所までの道が危ないと思う山が多いから	—						
	土砂崩れで逃げられない「道がなくなって」	水、食料については、3~5日は大丈夫(地域全体)ケガ人が出た時困る								
ガケ・山崩れ	ガケや山が崩れる恐れがある			—						
避難生活	病院が遠いので、まともな手当てができない			<ul style="list-style-type: none"> ・避難場所に食料を置いておく(5日分ぐらい) ・自助努力(3, 4日はがんばりたい) 						
心得	避難している間にケガをしたら、手当てができる所が近くにあるか心配	地震がおきた後、何をしたらよいか(どう行動するかなど)分からない	まず、近所14戸の安否を確認したい他の地域は遠いので状況が分かるのに時間を要す	<ul style="list-style-type: none"> ・避難する時に近所をまわる ・寝たきりや一人暮らしのお年寄りの人のために、近所の若い人が逃げる(避難)時に、家に寄る(寄る家を決めておく)などして一緒に逃げたらよいと思う ・地域の協力や仲を深めておく ・元気な人でチーム編成して、連絡がとれない所を見回る ・見て回る「ライフラインの確認」 ・のろしをあげる 						
通信	携帯の通じない所がある			<ul style="list-style-type: none"> ・避難の後、無線を使う ・手旗信号もどうか ・山の上のお年寄り宅等、元気であればタオル他、白いものを高い所に表示(通信不通の時) 						
—	町の子と田舎の子はちがう(生きる力)	神戸の震災記念館?に行って体験した時、"その時"頭をかばうより他に方法がないと思いました		—						

見出し	地震で心配なこと、困ること			対 策	離 が			い つ		
					自分	地域	行政	今から	その時	被災後
事前の情報	老人が多く避難経路や場所が心配	役場の建物が古く、対策本部に不安	避難場所と想定される所が危険な場合がある	もう一度検討し直す						
	冬なら衣服、夜具、避難場所	避難路の閉塞(土砂崩れ、橋の崩壊等による)	地域ぐるみの孤立対策							
	避難所の備蓄設備(トイレ等)	特定避難場所を知らない場合、"学校へ逃げろ"でいいのか								
一人ひとりの意識の高揚	防災意識、減災意識が高まっていきにくい	震災に対する予備知識の徹底	山間部の住民も津波メカニズムを知る必要							
	自分を守る為にどうするのか、日頃の意識の向上	地震による揺れの大きさと時間	自主防災組織の結成・育成	—	○	○	○	◎		
弱者	弱者の避難準備(身辺整理、物品の常備)	高齢者、障害者等の災害対策の避難誘導等の情報提供	災害弱者、情報弱者対策	・弱者よりの情報発信がしやすい状況をつくる ・情報の分析、取捨選択の力をつける→考える ・情報源の多様化						
	情報の多くが、視覚からなので視覚障害の人は孤立する	年寄りか1階に居住しているので心配	ケガ人の治療			○	○	○		
	持病による要治療者の対策	家財が倒れてケガをして動けない	階段が壊れて下へ逃げられない							
	生徒(あるいは一定多数の人)を安全に避難させるには?(指導する立場として)	夜起こると暗くて逃げられない	住民の年齢が高いので心配							
倒壊	浄化槽破壊、衛生面が心配	自分の住む建物(動く建物)は、震度何まで耐えられるか	家屋の倒壊による圧死	・S56年以前の木造建物耐震診断は、33,000円→3,000円						
	宅地造成の石積みが崩れる	地すべり地域に住んでいる	各世帯の情報入手が困難な場合がある(個人情報)		○	○	○	○		
	現在住んでいる建物が古い 築60年	アパートの高い階に住む人は、下りて大丈夫なのか?とどまるべきか?	家屋の耐震補強							
ライフライン	水道の断水	電線が心配	ライフライン水と電気							
	食料の不安	電気を使っている電話機は使えない		—						
発生時の情報伝達	通信の不通	携帯電話が通じない地域がある	ラジオが情報を知る手段だろうが、放送はちゃんとしてくれるのか、二重三重の対策をしているか	・FMだと入りやすい ・地元からの情報は無理→県外からの情報⇒ラジオ						
	情報の伝達 テレビ、ラジオ	ラジオが入らない	正確な情報伝達の方法は?		○	○	○	○		
	情報発信源の高知市内のダメージが大きいと全県的情報が入ってこない	公の情報発信の時間、方法を再考したほうが良い								
地震後の治安	警察の動きがわからない	混乱に乗じて物取りが心配	避難した地域の商店の品物の保護	・各部署(行政)の連絡情報の発信				○		
早明浦ダム	地震によってダムの決壊はないだろうか?浸水はどの程度?	上流域にダムの貯水池が多い	ダム等大型構造物の安全性	・正しい情報の周知を図る						
	河川の増水時、浸水の恐れ	地藏寺川が氾濫する危険						○		
孤立	山崩れ、山津波による孤立	通行止め(がけ崩れ)	道路が不通になり孤立する	・マップ作り						
	山崩れ等での道路の封鎖 陸の孤島になった場合の対策は	孤立世帯との連絡手段			○	○	○	○		
地震後の補償	災害補償手続きの不安	住宅の復旧	火災の発生時の際の対策(事前・後)	—				○		
その他	消防車(ホース)の口径が合わないので統一する必要がある	いつ起こるかかわからない不安がある	雨期の地震発生	—						